月間目標

1月 冬季安全管理
2月 安全運転
3月 新年度態勢の確立

いわみざわ

発行所 陸上自衛隊岩見沢駐屯地
OB会
岩見沢市日の出台1－3
印刷所 北海道立福祉村
空知郡栗沢町字最上350番地
℡（0126）45－2721

年頭の辞

駐屯地司令
一等陸佐
久留島昭彦

新年明けましておめでとうございます。

太古から未来永劫、連綿として流れ続ける時の流れの中で、年の初めは、いつもながら、不本意であった旧年の来し方をスッパリと御破算にして、新たな希望と決意に燃えてスタートできるように設けられた、真にありがたい結節であるといえます。

昭和六十三年は、昔流にいえば戊辰（ぼしん・つちのえたつ）の年です。十干と十二支によるこの年の呼び方は、還暦といって六十年ごとに同じ年が巡ってくるわけですが、この前の戊辰の年である昭和三年は、我が国が大正デモクラシーから昭和軍国主義の時代への過度期の年であり、更にその前の戊辰の年は、戊辰戦役が起こった年で、江戸幕府が倒れて明治新政府が樹立された、正に、その明治元年に当たります。こうしてみると、戊辰というのは、変革の年といえるのかも知れません。

昭和六十三年は、私達にとっては当駐屯地開設三十五周年の結節であり、第十二施設群では大幅な改編事業が行なわれる年であります。

即ち、名寄の地区施設隊は、人員、装備を大幅に増強されて交通作業を主任務とする第三四二施設中隊として生まれ変わり、また、器材中隊は、整備小隊を本部中隊に移管して縮小され、本部中隊は、整備小隊を吸収して本部管理中隊と改編されることになります。

これに伴い、三十数名が名寄、恵庭等に転属となるほか、各中隊間の移動も大幅に行なわれ、所属人員の三分の一以上の者が配置替えになります。

したがって本年は、新たな体制で、新しい伝統を築き上げてゆく出発の年であります。

また、昨年策定された駐屯地の将来構想に基ずき、すばらしい環境造りに実質的にスタートする年でもあります。

この最初の第一歩を、どの方向に、どのように踏み出すかが、将来に大きな影響を及ぼすことになり、その意味で真に重要な意義があるわけであります。

水底に潜む蛟（みずち）が竜となって天に登る昇り竜の辰年にあやかって、すばらしい発展の第一歩となる年でありたいものです。

年頭所感

隊区連合会長
笠原喜平治

輝ける一九八八年の新春を迎え皆様に心からご祝意を申し上げます。

さて、私は協力会長として永年お世話になっており、むしろ協力を頂いておることにお礼を申し上げ今後共格別のご配慮を願うものであります。

幸い歴代駐屯地司令をはじめ幹部の方々の指導よろしきを得て市民との融和がはかられ、市民の多くが駐屯地の存在意識を十分弁え、感謝の気持ちすらもって接しております。隊員の方々も夫々の地域に根を下ろし町会の一人として又、一市民として協力を頂いておることに深く敬意を表します。

戦後四十三年を迎えた日本は国民の英知と努力によって幾多の困難を克服し、我が国の防衛努力と日米安全保障体制を基軸として、今日の平和で自由な繁栄国家を創建できたのであります。戦後の混乱と欠乏の時代を強いられ、今や「飽食の時代」などの新語が生まれるなど、隔世の感一入のものがあります。更に持続繁栄の努力を怠ってはならぬと思います。

最近米ソ両国によるINF交渉により条約が調印され結構なことと存じますが、なお依然として各地で武力紛争や軍事衝突が続いております。危機に対する感覚を見失いがちになりますが、この危機の可能性が零%と言い切れない現状をみるとき更に国防努力の積み重ねを痛感する次第であります。

昨年の創隊記念式での司令の式辞で「有事の際自衛隊のみでは戦いにならぬ、民間のバックアップが是非必要だ」とのお言葉どおり、私共協力会は折りにふれ世論を喚起することも協力会の任務であると心得ております。

隊員の皆さん、国の防衛という崇高かつ重大な使命を十分自覚され、一致結束、各々の任務に邁進されますようにその負託に応えるためには心身の鍛練が最も肝要であります。

新春を迎えるにあたり自衛隊の今後益々のご繁栄と隊員各位のご健勝を心から祈念いたし挨拶といたします。

昭和63年 訓練始め

第十二施設群は、一月四日、訓練始めの、スキー機動訓練を実施した。

駐屯地近傍から山地機動の後、市民スキー場で部隊滑降等を披露し、その威容を市民に示すとともに、年頭に当たって訓練意識を高揚した。

北部方面総監の
―第3施設団訓練検閲終了―

第十二施設群
道北に奮戦「優良」の成果

第十二施設群は、十一月九日（月）～十四日（土）の間、群本部及び各中隊の指揮機関を北海道大演習場西岡地区に展開し、北部方面総監（陸将井上年弘）の第三施設団訓練検閲を受閲した。検閲受閲に先立ち十一月十日十時から南恵庭駐屯地において、第三施設団の全部隊が集結しての編成完結式が行なわれた。団長（岡崎一佐）は、「㈠上級・関係部隊の行動を積極的に掌握せよ。㈡報告、通報を確行せよ。」の二項目を訓示において要望され、各群は受閲に対する決意も新たにそれぞれの地域に展開した。

第十二施設群は、群長（久留島一佐）の受閲態勢状況の点検後、検閲受閲に臨む群の姿勢として「本検閲を部隊練成の場として最大限に活用せよ。」と強く要望され、更に指揮所の運営に当たっては見積、計画、命令、工程管理、報告等を適切にして効率的な運営を実施せよと付言された。

十日十六時に状況が開始され、第二師団に配属された第十二施設群は、当初「師団予備陣地の構築及び障害構成、MSR（補給幹線）の維持補修並びにDTn（師団段列）の開設等の施設支援に任じ、戦況の進展に伴い、後退行動、遅退行動及び障害構成」等の各種支援を実施して、三夜四日にわたり第二師団の作戦を支援して状況を終了した。

検閲間の十一日には第三施設団長の現地指導が行なわれ、また、十二日と十三日には北部方面総監（井上陸将）の二回にわたる視察の栄に浴する機会を得、この際、総監は各中隊CPを視察され隊員を激励された。

本検閲を通じて第十二施設群は、師団の防御支援に任ずる施設群としての指揮幕僚活動及び年防に関する多くの教訓を得たことにより次年度以降の訓練計画等に多いに反映活用しうる貴重な体験を得た。

駐屯地環境整備長期計画策定

岩見沢駐屯地（司令久留島一佐）では、時代の進展に応じた将来の駐屯地の在り方について検討中であったが、このほど駐屯地環境整備の将来構想を定め、それに基づく、駐屯地環境整備長期計画を策定した。

この計画は、基本的な訓練の場として、また、隊員が真にくつろげる憩の場として、あるいは市民との交流の場、地域の「名所」として通用するような駐屯地の環境造りを目標とするものであり、本年から実質的にスタートし、逐次整備を進めていくものである。その主な整備内容は次のとおり

ア、基本的な訓練を、駐屯地内で軽易に実施できるように整えるための施策

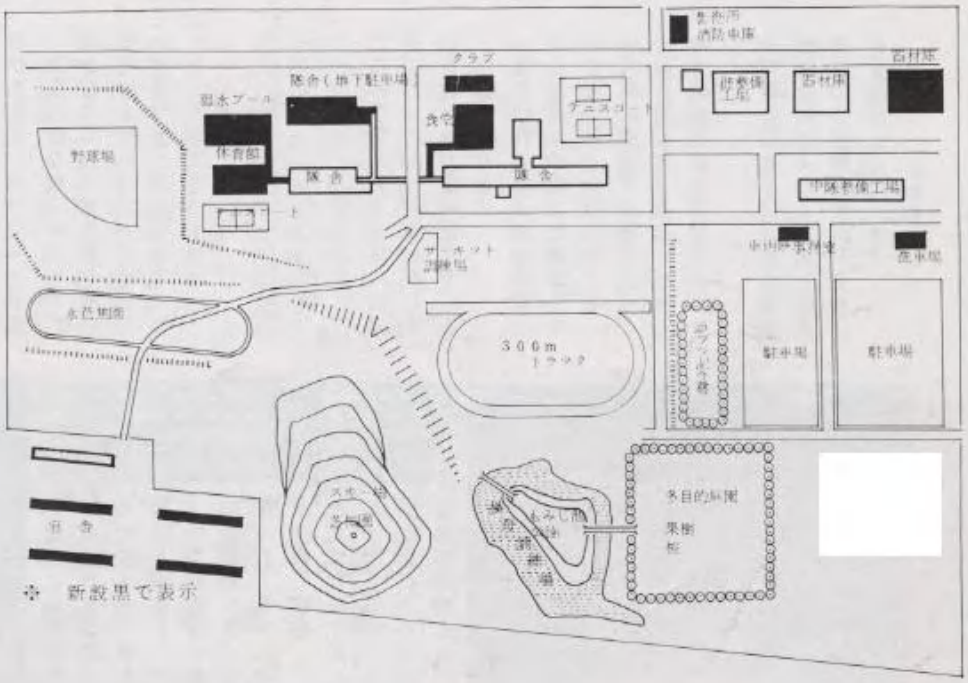
・スキー訓練場・漕舟訓練場・体育館・グランド

イ、隊員が下宿等を持たなくても、くつろげる居住環境を整えるための施策

・ゆとりある隊舎（四人部屋）・スポーツ、厚生施設（三百メートルトラック、温水プール、テニスコート、サウナ）

ウ、隊員と市民の共通の憩の場所となり、かつ、市の名所としても通用するような公園化施策

・スキー山の芝桜化・コブシ（市の花）記念林・もみじ池公園・外柵の生垣化・電線の埋設



思い出深き'87

▲ 2月　群スキー大会

▲4月 北部方面総監 井上陸将初度視察

▲4月 群銃剣道大会

▲5月 石狩川での渡河訓練

▲8月 天塩川にて
自走浮橋による全通架橋

▲3月 新群長久留島 1佐 着任

▲7月 群野営隊容検査

▲ 新隊員終了式 6月

▲ 8月 岩見沢夏祭り支援

▲ 9月 駐屯地創立記念行事

▲ 12月　年忘れ大会

おめでとうございます

昭和63年 元旦

岩見沢市長 国兼孝治	三笠市長 能登和夫	栗沢町長 山田晃睦	月形町長 鈴木勇三	北村長 小木曽法	岩見沢商工会議所 会頭 三谷栄一	三笠市商工会議所 会長 奥正義
自衛隊協力会 岩見沢隊区連合会 会長 笠原喜平治	三笠自衛隊協力会 会長 近江章	栗沢自衛隊協力会 会長 天崎義徳	月形自衛隊協力会 会長 菊池福之丞	北自衛隊協力会 会長 神有吉	全国自衛隊父兄会 岩見沢支部 支部長 池田秀和	全国自衛隊父兄会 三笠支部 支部長 岸本竹雄
全国自衛隊父兄会 栗沢支部 支部長 清水数雄	全国自衛隊父兄会 月形支部 支部長 前田八次郎	全国自衛隊父兄会 北支部 支部長 伊藤正次郎	隊友会岩見沢支部 支部長 岡田徹也	自衛隊退職者雇用協議会 岩見沢支部 支部長 三谷栄一	陸上自衛隊岩見沢駐屯地 駐屯地司令 久留島昭彦	陸上自衛隊岩見沢駐屯地 業務隊長 米本健

皆様の福利厚生のために
クラブ・酒売店経営
物資の販売・引越あっせん
役員（KP）の受託
防衛弘済会
岩見沢事業所

自衛隊退職者雇用協議会
岩見沢支部
事務局：岩見沢市商工会議所内
支部長：三谷栄一
TEL：0126-22-3445

国をまもる防衛庁職員のための
◎家族保障保険
◎ニューライフサイクル
◎終身保険やすらぎ
協栄生命
担当：田村純子、高橋ひさ子

年男がごあいさつ

年頭にあたり

十倉3佐

みなさま、家族お揃いで良いお正月を、お迎えのことと存じます。

私も、去年三月、残雪多き岩見沢駐屯地に第三一二施設器材中隊長として着任し、早十ヶ月が過ぎました。

思えば着任早々、団銃剣道大会に始まり、中隊内の小隊訓練検閲の実施、天塩川で三夜四日にわたり雨の中で受閲した団長訓練検閲及び十一月受閲した北部方面総監訓練検閲、各種部内外工事、諸検査等、本当に息のつく暇もないほど多忙な毎日の連続であったように思われます。

しかし、「我々が、やらなければ誰がやる。器材中隊の活躍なくして、何事も決定的になり得ない」との誇りのもと、九十六名の隊員が一丸となって団結し、如何なる困難な条件下においても屈することなく「没我支援」の精神を発揮し、やり遂げてまいりました。この事は、全隊員が、無私の支援精神に徹し、工兵魂を発揮した賜物と心より感謝しております。

しかし、我々は、常に明日のため一歩でも二歩でも前進しつづけなければなりません。いつでも、如何なる状況においても整斉・確実に対応できる準備を整えておかなければならない宿命を持っております。

今年も訓練・検閲・部内外工事、及び、改編と多忙な年になると思いますが、一層団結を強固にし、更に高い目標に向って挑戦し、「いざという時、真に役立つ逞しい中隊」の完成を図るため、中隊全員で努力をはかりたいものと決意を新たにしているところであります。

年頭にあたり、本年も一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますと同時に隊員及び御家族の皆様方の御多幸を心からお祈り申し上げます。

昇龍のごとく

由田2曹

明けましておめでとうございます。一年の計に皆さんもそれぞれ心に秘めた抱負を抱いて初仕事にと頑張っておられると思います。私は今年三回目の年男であります。その昔、年男とは年の暮れのススはらいに始まり神棚を飾り、門松を立て、鏡餅等を供え除夜の鐘を聞いて若水を汲み、朝はそれで雑煮を煮て家の者に振舞ったと聞いております。私も一家の主として又、三十六歳円熟味のある人間へと成長し、家族の平和と、隊務におけるイブシ銀的、力を発揮させ、今年一年昇龍のごとく、いやこれからの人生を昇りつめていきたいと思います。

本年の抱負

山上士長

自分は、毎年、年頭には新たな目標を立てているのですが、今だ達成の経験がなく敗北感を味わいばなしです。

毎年惰性に流され、目標達成の意欲を失い「駄目だった」で終っている次第です。

昨年六月父親が急逝し、長男である私にとって大異変が発生、今までのような生き方ではいけないことを自覚しました。

本年は私の年「辰年」であり、強い信念をもって、目標の「陸曹候補生合格」にチャレンジして行こうと決心しました。

前向きの姿勢で

手島士長

新年明けましておめでとうございます。

昭和六十二年、辰年、私は今年二十四歳になり、年男であります。今まで、新年を迎える時は、ただ何となくであり、あまり実感も湧いてこなかったように思います。しかし、今年は例年とは異なった事柄を年頭において、新年のスタートとしたいとおもいます。そこで今年は、忘れかけた事を思いだし慣れきった事を、また、一からやり直したいと思います。また、今年は、初心を忘れずに「前向き」の姿勢で物事に取り組んでいき、人生の節目である今年一年を、意義ある一年にしていきたいと思います。

今年の抱負

掘岡士長

もう二十四才、まだ二十四才、もうとまだではぜんぜん聞こえが違います。自分の場合はもう二十四才である。何事にも焦りが出る年令になってしまったが、まだ若い。昔からよく言われますが、「若い時の苦労は買ってでもしろ」と、自分は、金を出してでも苦労はしたくはありません。しかし自分は今、壁にぶつかっている。陸曹候補生という自分にとっては、大きな壁です。避けて通ろうと思えば違う人生が待っているわけですが、自分は、自衛隊が好きで、やめたくはありません。その為にはやっぱり勉強するしかないと決意する次第。「俺は、やるぞ。」今年こそ、男としてのけじめをみせてやる。

いわみざわシリーズ #11

利根別自然公園②

北海道自然百選の一つである利根別自然休養林に囲まれた「利根別自然公園」は、農業用ため池を配した水と緑の豊かな公園で、ボート遊び、キャンプ、バードウォッチング等、市民の休養と散策の場として親しまれています。

冬は歩くスキーの絶好のフイールドとなり、春は雪解けとともにミズバショウが水辺に花を開き、林の中はフクジュソウやエゾエンゴサクの花で彩られます。

新緑の公園にはオオルリ、キビタキ等の美しい小鳥がさえずり、オシドリがヒナをかえします。クマゲラも例年姿をみせ、年間を通じて百種類を超える鳥達が記録されています。

市街地のすぐ近くで、これ程自然にめぐまれたすばらしい公園は、めったにありません。大切に活用したいものです。

田中(元)士長(宗谷～東京)まで 一、七二〇キロ踏破

岩見沢駐屯地（司令、久留島昭彦一佐）第十二施設群第三三五施設中隊に所属していた(元)陸士長田中真弥君（二十二）は家業の跡継ぎを理由に昭和六十二年九月三十日付けをもってやむなく退職する事になったが、退職するにあたり在職間自衛隊で培った気力、体力を試し「今後の自分の人生の生きる力にしたい」と一念発起、在隊を記念して、北海道宗谷岬から故郷の京都まで徒歩帰郷を決意し去る十月六日〇六三〇宗谷岬にある日本最北端の碑の前を寝袋・着替え・雨具・地図など約十キログラムの荷物をリュックに詰めてテクテクと……。

一七二〇キロメートルにわたる行程を、宗谷から岩見沢・青森・弘前・秋田・富山・金沢・鯖江・今津・大津及び大久保と一路日本海側を南下していたが、ついに全行程を完全踏破し、十一月二十五日、五十一日間ぶりに実家である京都市南区北島羽田町七十番地の両親の下へ無事到着した。

五十一日間の長い道程では、見知らぬ人に声援、激励あるいは親切を受け「あったかな人情をつくづく感じた」との嬉しい話が舞い込んだ。

この間、青森、弘前、秋田、富山、金沢、鯖江、今津、大津、大久保の各駐屯地では歓迎と激励を賜り、特に大津（六十年、五月入隊）では新津保義司令をはじめ、隊員六〇〇人による駐屯地をあげての歓迎と、花束等による激励を受け、また、大久保駐屯地では営門前歓迎の横断幕が掲げられ、上谷堅士副団長をはじめ、隊員約四〇〇人と家族たちが出迎え、ファンファーレが成り響くなか花束を受け、実家の地元である東上ノ町南町内会（村田良治会長）から記念トロフィーが贈られ、更に、大津駐屯地の同期六人による胴上げ等、駐屯地及び地元の人達の暖かい歓迎に、大感激をする場面の写真等が届いた。

お世話、激励を頂きました駐屯地の皆様、また、道中励まして頂きました皆様に改めまして関係者一同深謝し厚く御礼申し上げます。

一七二〇キロメートルにわたる行程を完全踏破した田中真也君に対しては、この貴重な体験を生かし、今後の人生の糧として立派な社会人としての御活躍を期待したい。

本当に良くや　たぜ田中真也君、踏破を祝って万歳！

第三二七会計隊 総合視察受察

第三二七会計隊は、十二月十五日方面総監の実施する総合視察を受察しましたが、問題点もなく無事終了することができました。

受察項目は、隊務全般、会計業務、訓練管理、即応態勢、服務指導、安全管理、補給整備業務と部隊全般についてであり、当初は何から手を付けていいものやら暗中模索の状態でしたが、全員で分担し教範や方面会計隊隊務運営計画と睨めっこしての準備作業は、新たな知識を得ることも多く現行のマンネリを痛感した次第です。

本受察に当たっては、駐屯各部隊の皆様に御迷惑をかけ、また、御支援を頂き有難うございました。

部外除雪工事開始

岩見沢地方は、北海道でも特に豪雪地帯として知られ、又、名寄は厳しい寒さのため雪の融ける度合いが少なく冬の除雪には一入苦労しているところであります。

昨年は、名寄で十一月十六日、岩見沢で十一月十九日に初雪が降り、そのまま根雪となって見渡すかぎり、白銀の世界のうちに新たな年を迎えました。

第十二施設群（群長　久留島昭彦一佐）は、六十二年度も岩見沢・名寄各市長及び北村長の要請に基づき第三一二施設器材中隊、第三三六施設中隊及び第三〇一地区施設隊の人員・装備をもって岩見沢市道、名寄市道、北村道の各部外工事の態勢を十一月三十日に完了し、十二月一日から工事を開始しています。

十二月は二十二日までに例年と同じく約三メートル近くの降雪があり、各作業隊は岩見沢十回、名寄九回、北村六回の出動となり、朝七時までに各担当道路を除雪して通勤・通学路の確保に任じています。各作業隊の工事は、正月も休むことなく続けられますが今年も大いなる活躍が期待されます。

（別表は左に）

部外除雪工事支援状況表

地域	岩見沢	北村	名寄
担任	第312施設器材中隊	第336施設中隊	第301地区施設
延km	9.6	15.6	5.5
排雪	3,000		7,500
隊長	岡本 2尉	宮村 1曹	佐々木 2尉
隊員	12	10	24

珍鳥――コウミスズメ保護

十一月二十四日、岩見沢駐屯地で一羽の珍しい鳥を保護した。

この鳥は「コウミスズメ」でペーリング、カムチャッカ海の島に繁殖し、冬鳥として北部日本の海上に少数が渡来するが、内陸部に入り込むことはほとんどないといわれている海鳥。体長約十五センチメートル。嘴は短小で黒、上面は黒褐色で肩羽の一部が白、下面も白くて褐色の斑文がある。

二十四日夜七時頃、折りからの暴風雪に吹き流されて駐屯地に飛んで来たらしく、駐屯地内駐車場に飛べなくなりうずくまっているところを巡察中の第三三五施設中隊村田士長が発見し保護したもので、ダンボール箱で作った即席の巣箱の中で一夜を過ごした。

翌日、この鳥を見た隊員達は、カモの子供ではないか？とか……いろんな名前がつけられたが、野鳥の会会員で三十年来のバードウオッチングの久留島一佐（第十二施設群長）により「コウミスズメ」と確認された。このコウミスズメは、弱々しく疲れ切っていたが、与えた水を飲み心もち元気になったため、空知支庁自然保護課の係員に飼育を依頼し、引き渡されたが、これを見守る久留島群長はじめ隊員達は一日も早く元気に飛べるようになり旅立つ日を祈っている。

昇任・合格おめでとう

☆第十二施設群☆
准陸尉へ　桜井　博俊
北野　一年
陸曹長へ　井出　正己
松澤　弘志・霧下　隆徳
堀井　純平・村岡　勝
岸良　省三・千葉　徳男
得地　冨明・山村　睦雄
一等陸曹へ　石川　征明
藤原　恒雄・市川　孝徳
平尾　孝・戸之口宏行
貴田　千城・鈴木　勇
二等陸曹へ　林　勝則
角田　耕造・折笠　一可
久保　朝秀
三等陸曹へ　豊蔵　悟
伊藤　重雄・長谷川眞己
石川　吉則
☆業務隊☆
一等陸曹へ　斉藤　義則
行　5へ　柴田　實

合格

☆#69　部内幹部候補生へ
第三一二施設器材中隊
二等陸曹　斉藤　貢広
第三三六施設中隊
三等陸曹　矢田　浩通
☆#37　三尉候補生へ
第三一二施設器材中隊
准陸尉　兵井　弘
岩見沢駐屯地業務隊
准陸尉　佐藤　勝
☆62年度　技術陸曹へ
第三一二施設器材中隊
陸士長　新原　春義
☆#73　陸曹候補生
本部中隊
陸士長　本田　典康
第三三五施設中隊
陸士長　山上　竜一
第三三六施設中隊
陸士長　中村　信之
第三三七施設中隊
陸士長　塚田　忠義
第三〇一地区施設隊
陸士長　川原　忠信

栄光をたたえて

三級賞詞
☆第十二施設群☆
二尉　田中　幸彦（職）½
一曹　野元　武志（職）½
二曹　藤原　恒雄（職）½
三曹　田中　勝（車）½
☆業務隊☆
一尉　高橋　政明（職）½
二尉　蔵本　久男（職）½
四級賞詞
☆第十二施設群☆
一曹　倉橋　幸男（職）¼
三曹　佐伯　清（車）¼
三曹　加茂　弘一（車）¼
三曹　西森　敏夫（車）¼
三曹　工藤　義浩（車）¼
☆業務隊☆
二尉　早木　弘充（職）½
三曹　斉藤　政則（職）¼
行　4清水　忠（職）½
☆陸曹候補生課程教育優秀者
第三三五施設中隊
士長　伊藤　重雄
北部方面総監賞（前期）
教育部長賞（後期）
士長　池田　弘美
中隊長賞（前期）
第三二七会計隊
士長　安達　義孝
戦技賞（体力）（前期）

こんにちは赤ちゃん

山内　克彦（½）
三男　英樹
（強くたくましく）
宇山　達也（½）
長女　瑛梨花
（やさしい女の子に…）
吉松　幸夫（½）
長女　未有
（かわいい女の子に…）

成人おめでとう

成人おめでとう成人おめでとう
成人おめでとう成人おめでとう

クラブ紹介　駐屯地野球部

駐屯地野球部は、各中隊から部員の希望者を募り、有望な選手を選考し昨年七月に監督以下十五名で結成し、チームとしてスタートしました。

チーム名は「岩見沢自衛隊」として、ユニホームも一新し少数精鋭？で大会に望みました。

新チームは、岩見沢市野球連盟が主催する信金杯争奪朝野球大会に初参加、一回戦コカコーラと対戦し四対一で初戦をかざりました。この大会で、五回戦（ベスト四）まで勝ち進みましたが準決勝で市農協に僅差の二…四で敗れ、初参加、初優勝の夢は消えました。優勝こそ逃したものの、本大会で得たものは多く、今年度に向かって更に練習を重ねよい成果をあげる様期待しております。

なお、野球部を結成するにあたり今まで各中隊独自チームを持っているため、駐屯地野球部としての編成がむずかしく編成できなかったものが今回新監督（芳野曹長）の働きかけでようやく実現できたもので、今後益々の活躍が期待されます。

▽群本部中隊
杉田　龍典・深草　健浩
▽第三三五施設中隊
竹安　秀己・利光　康夫
村上　直樹・吉田　松宏
岩崎　剛・西野　孝一
▽第三三六施設中隊
吉濱　英樹・佐藤　泰一
神田　達也・木村　一成
小林　宏
▽第三三七施設中隊
石黒　潤司・玉手　浩二
島　祐司・斉藤　武彦
野呂　泰彦・澤田　儀文
花田　済
▽第三一二施設器材中隊
猪浦　敏明・松浦　亨
村口　優介
▽第三〇一地区施設隊
鈴木　博幸・佐藤　利秋

永い間御苦労さまでした定年退官

第三一二施設器材中隊
曹長　速水　豊（½）
〈就職先〉
北海道ハイウェイ・サービス株式会社　岩見沢営業所
自宅
岩見沢市日の出台一丁目
第三二七会計隊
曹長　坂上　芳彦（½）
〈就職先〉
北海道ハイウェイ・サービス株式会社　岩見沢営業所
自宅
岩見沢市六条東十一丁目

正社員募集
職種
火災、傷害、自動車保険等の損害保険セールス
応募資格
満20歳～45歳高卒程度の男女
富士火災
岩見沢支社支社長　中本圭洋
岩見沢市5条西3丁目（カギヤビル 4F）
Tel (0126) 23-5142

建設業者登録・北海道知事許可（般）60第1484号
2級建築士事務所登録第906号・日本増改築産業協議会登録店正会員
（財）日本住宅リフォームセンター増改築相談指導員登録第8401号
— 増改、リフォームの専門店 —
システムショップ さいじょう
株式会社西城工業
岩見沢市大和2条7丁目 ☎ (0126) 23—1840(代)
FAX (0126) 23—1695

あなたの祝典のステージ
岩見沢 平安閣
岩見沢市5条東2丁目
☎(0126) 23—4581